
山口さん

みずかわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

山口さん

【Nコード】

N3381BA

【作者名】

みずかわ

【あらすじ】

飲み屋の山口さん家で居候している少年少女がくだらない事を
するだけのお話です。

001 誘拐されましたラミーちゃん！

16歳の夏のこと。学校の3階上りの階段でたそがれていると、目の前に人が転がってこようとしている。びつくりして自分は避けて手すりに捕まって引いてしまったけれど、今思えばあのとき助けていれば運命は変わったかもしれない。3階から転がってきたのは割とポリューミーな男子生徒。そんな男子生徒は階段から落ちて酷く痛そうな顔をしているがそれもそうだ。手首からは多くの傷が見え隠れし、頬は殴られた後らしく少し腫れている。最も見苦しく見えたのは目にナイフが何か刺されたのだろうか…刺された様な右目は閉じていたが間から血が流れ出ていたのだ。あまりにも酷い怪我なので自分は怪我の応急措置を施そうと見知らぬ彼に近寄る。

「喧嘩でもした？」

彼は苦しそうで今にも死にそうな声を出した。意外にも可愛らしい声…それどころじゃないよ…っ！あいつは本気で僕を殺そうとしている！

「る！」

自分は彼の言う『あいつ』が誰なのか知らない。それに人を殺す人なんて滅多にいないものだから、冗談程度に思っていた。しかし彼の言った事は確かであったんだ。

「駄目だ！早く逃げなくちゃ…君も逃げた方が良いよ！」

汗と血の匂いが混じって吐き気がする。これまでそんな、こんな光景は見た事がない自分には彼の言っている『あいつ』よりも彼の傷の方が怖い。

彼は左目を見開いた。彼は階段の上を見ていた。彼の見える先には『あいつ』がいた。

「はあ…あああ…あ……」

身長190センチ体重100キロはありそんな大柄な男が、180

センチちよつとの男を目にしてびびっている姿は今でも覚えている。一見普通の男子生徒だが、彼の目は違う。本気で人を殺そうとしている。自分が何とか涙を出さずに歯をくいしばる頃、大柄の彼は既に気を失っているではないか。あいつは床に倒れてる彼を目掛けて階段を下り、自分を避け彼に一刺したのだ。彼の持っていたのは美術室にある工作用の錆びたカッター。次は自分かとこれまでの事を振り替えるところ、殺人犯の彼は狂喜に満ちた目をギョロギョロしたあげく、自分を凝視しているじゃない。

「逃げた方がいいんじゃないかな…？」

何言ってるんだろう。駄目元で死亡フラグを回避しようと、とりあえず会話しよう。自分の体中には返り血がかかり、白いYシャツに滲んでいるので端から見たら自分もまるで殺人犯。

2人と1人の死人の間に数秒の沈黙の末、彼の何かが変わった。

「……………っあ！」

彼は彼の手で殺した190センチの男を見て驚いた表情をして、冷や汗を出し苦笑いをするのだけど自分はガタガタと震えが止まらない。自分が震えているのをみた彼は、一言ごめんねと寂しそうに呟いた。そのあとの事はよく覚えていない。うつすらと頭に記憶されている事と言えば、彼が自分の鳩尾を力強く殴り痛い思いをしたこと。気が遠退いていく中、大きな腕で体を持ち上げられた様な感覚がしたところで全部。

気付けばバーか何かの飲み屋のソファ。近くでさっきの殺人犯の声がするから確信した。

自分は誘拐された

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3381ba/>

山口さん

2012年1月8日20時48分発行